

令和4年度 自己評価表

※評価基準： A＝達成できた
B＝おおむね達成できた
C＝ある程度達成できたが改善が必要
D＝達成できなかった

重点目標 1 安全・安心な学校づくり

部	関連する 重点目標	取組目標	取組方法
小学部	1 安全・安心な学校づくり ①安全管理と防災・安全教育の充実	(継続 ・ 新規) ・安全管理に関して教員間で共通理解を図り、事故未然防止に努める。防災・安全教育においては「自分の身を守る行動をとる」ことのできる児童の育成を目指す。	1 安全管理の徹底 ・過年度のヒヤリハットを検証する。 ・教員内での教育環境整備への意識付けを図る。 ・事故防止のための児童の実態把握及び教員間での共通理解を図る。 2 防災・安全教育の充実 ・イラストなどによる分かりやすい支援をする。 ・自主的な行動を促すための指導を実施する。 ・振り返りの実施で次回への改善に繋げる。 ・地震初期対応実態表にて確認する。
保健指導部	1 安全・安心な学校づくり ②心身の健康を守る保健・安全教育の推進	(継続) ・ 新規) ・安全できれいな学校作りを目指すし、感染症対策と清掃を教職員が共通の意識をもって取り組む。	1 全教職員に基本的な感染症対策の必要性や本校ガイドラインについて周知し、教職員の意識の向上と共通理解を図る。 2 感染症予防・拡大防止ときれいな学校を目指し、必要に応じた消毒と洗面台やトイレの清掃を徹底する。また、それに必要な物品の管理や補充を適切に行う。
保健指導部	1 安全・安心な学校づくり ①安全管理と防災・安全教育の充実	(継続) ・ 新規) ・実際の災害や学校の実情に応じた防災訓練・引き渡し訓練の実施と、備蓄品の整理と周知を行う。	1 消防署や危機管理委員会からの意見を取り入れたり、地域の防災訓練の様子を参考にしたりしながら訓練やその他の防災関係を見直す。 2 備蓄品の管理と適正数の把握・追加を行い、教職員だけでなく保護者や児童生徒へも周知する。
生徒指導部	1 安全・安心な学校づくり ②心身の健康を守る保健・安全教育の推進	(継続) ・ 新規) ・児童生徒の登下校時及び休日中の事件や事故を未然に防ぐために、児童生徒に対する指導の充実や教職員、保護者への啓発を含めた指導体制を整えて指導にあたる。	1 年間を通して教職員による登下校時の通学指導（スクールバス車中指導およびバス停巡回指導や単独通学生対象の駅指導、通学路立哨指導）を行う。 2 構内の入退構についてのルールを丁寧に説明し、事故のないように誘導する（構内安全強化週間の実施）。 3 不審者対応研修を実施し、児童生徒の危険を防ぐ知識や技能を学ぶ。 4 保護者会等における丁寧な説明や生徒指導だよりの発行、HPでの掲載等を行うことで安全教育の啓発を行う。
事務部	1 安全・安心な学校づくり ①安全管理と防災・安全教育の充実	(継続) ・ 新規) ・危険個所の修繕、改善を実施する。	1 安全点検等で報告のあった破損箇所や基幹箇所について、緊急度等を勘案し、予算の範囲内で修繕等を実施する。 2 予算不足等により、直ちに実施出来ない箇所については、本庁と協議の上、早期の実施を検討する。

重点目標 2 学習指導の充実

部	関連する 重点目標	取組目標	取組方法
小学部	2 学習指導の 充実 ①ICTを活用した 指導の充実	(継続 ・ 新規)	1 ICT教育の充実 ・生活単元学習の年間指導計画にプログラミング教育の単元を組み込む。 ・情報部と連携し、研修会の実施や実践例及びソフトの紹介などを行う。 ・授業実践後、単元指導計画にて反省を記入し、画像を記録として保存する。
		・児童の実態に応じたICT教育の充実を目指し、ICT教育を取り入れた授業の実践及び保護者への啓発を積極的に行う。	2 保護者への啓発 ・授業参観でICT教育を取り入れた授業を行う。 ・ブロック便りやホームページにて授業の様子を紹介する。
中学部	2 学習指導の 充実 ①ICTを活用した 指導の充実	(継続 ・ 新規)	1 ICTを活用した授業を行い、良い取組を学部内で広め、互いに学ぶ合うことで、授業実践の数を増やす。また、他校の取組を調べ、授業実践に活用する。(通年)
		・ICTを活用した授業や課題研究(自立活動、授業改善)を推進し、学習指導の充実を図る。	2 ICTを活用した授業を保護者へ周知する。(授業参観、保護者会、個別懇談、学年だより等)(通年) 3 自立活動の研修や研修資料の配布を行う。(通年) 4 自立活動の実践や手立てを増やし、グループでのケース会議を行うことで、生徒の実態把握や自立活動の理解を深め、指導の充実や自立活動目標設定シート作成の習熟につなげる。(通年) 5 昨年度の実践を継続し、三つの柱、3観点に沿った単元計画、略案の様式の検討しながら、授業実践や授業改善を行う。また、生活単元計画の年間指導計画を吟味し、3年間という視点から学年間のつながりや系統性の見直しをする。(通年)
中学部	2 学習指導の 充実 ②自立と社会参 加に向けたキャ リア教育の推進	(継続 ・ 新規)	1 中学部各作業班で共通して育成を目指す資質や能力をまとめ、一覧として周知、共有することで、指導、支援の視点を明確化し、各作業班での指導、支援の質の向上につなげる。(～5月)
		・作業学習をきっかけに中学部内、中学部高等部内でつながりある指導を広げ、学習指導の充実を図る。	2 視覚的支援や支援ツール等の教材や各作業班の取組を周知し、学部内で共有することで、授業作りや指導、支援の拡充につなげる。(通年) 3 授業当初での目標設定、授業まとめでの評価を固定して取り組むことで、目標設定、振り返りのサイクルを習慣化できるようにする。(通年) 4 高等部実習ノートや作業日誌を参考に、中学部の実習ノートや作業日誌を見直す。また、校内実習での作業内容に高等部特設班の作業内容を加え、作業経験を広げる。(1月) 5 高等部が職業充実指導でまとめた清掃マニュアルを周知し、清掃指導や自立活動等での取組に用いる。(～5月) 6 中高農業班での合同作業、高等部サービス班による清掃指導など、学部を超えた生徒同士による学び合いの機会を創設する。(通年) 7 作業学習での取組を日常生活の指導の中へ派生して指導することで、働くことと生活することの関連やつながりを意識できるようにする。(通年)

高等部	2 学習指導の充実 ②自立と社会参加に向けたキャリア教育の推進	(継続 ・ 新規)	1 方針やスケジュールについての確認、自立活動に関する研修(～6月) 2 自立活動目標シートを作成し対象生徒の実態や手立てを確認する(～9月) 3 自立活動目標シートをもとに作業班別で対象生徒(1名)の目標や手立てを検討する。(～12月) 4 3を参考に、各自の対象生徒の次年度に向けた目標設定について検討する。(～2月)
		進路決定に向けて、自立活動の視点に基づいたキャリア教育の推進を図る	
訪問教育学級	2 学習指導の充実 ①ICTを活用した指導の充実	(継続 ・ 新規)	1 昨年度、オンラインで行われた授業や行事の良かった点や見直すべき点を振り返り、共通理解を図る。(4月) 2 コロナの感染状況により、その都度授業の持ち方や行事の実施方法について検討をする。(通年) ・オンライン授業を含め、訪問教育学級の授業のガイドラインの見直し。 ・オンライン授業やオンラインでの行事の内容の充実を図る。 3 授業や行事の実践をし、その都度反省改善していく。(通年) 4 今年度の実践を振り返り、来年度の実践に生かせるようにする。
		・ZoomやTeams等のアプリケーションを活用し、コロナ禍における安心安全な教育活動の実践を図る。 ・オンライン授業や行事(児童生徒の家庭と学校、家庭同士)の質の向上を図る。	
学習指導部	2 学習指導の充実 ①ICTを活用した指導の充実	(継続 ・ 新規)	1 各自担当する授業においてICT活用についてを指導略案等に記載して実践していく。(年間) 2 情報部と連携し、ICTを活用した教材例や授業実践例の提案をし、各学部の発達段階に応じて授業に取り入れていく。(年間) 3 実践例となる事例を集積し、指導略案等を教材フォルダ上で校内全体で共有する。 4 プログラミング教育について実践し、実践例や使用した教材等について学校全体で共有していく。
		・ICT教育の理解・推進、ICTを活用した教材や授業実践例の提案・情報の共有、プログラミング教育の実践	
学習指導部	2 学習指導の充実 ②自立と社会参加に向けたキャリア教育の推進	(継続 ・ 新規)	1 キャリア教育について研修し、本校のキャリア教育全体計画等について学校全体で理解を深める。 2 キャリアパスポートの活用や意義についてあらためて周知し、必要に応じて綴る記録等の検討を行う。 3 教育研究集会テーマCと関連させながら、各学部児童生徒の発達段階に応じたキャリア教育の視点に立った学習内容の検討をし、実践していく。また、研修部、研究推進委員会と連携を図りながら、各学部でその視点を共有していく。 4 キャリア教育の視点に立った学習内容について、指導略案や単元指導計画の該当欄に記載する。
		・キャリア教育の理解、教育課程研究集会テーマCと関連させたキャリア教育の視点に立った学習指導の実践	

情報部	2 学習指導の充実 ①ICTを活用した指導の充実	(継続 ・ 新規)	・ 教員へのサポートを行う。学習指導部教科部会と連携。 (情報機器の保守点検、教材や授業例の紹介)「学習指導部と連携」 【情報視聴覚機器係・情報教育係】
		・ GIGAスクールで配備されたタブレットPCの有効活用を図る。	・ 保護者へのICT教育の取り組みへを周知し、理解を深める。【HP・広報係】
進路指導部	2 学習指導の充実 ②自立と社会参加に向けたキャリア教育の推進	(継続 ・ 新規)	1 中学部実習の事前事後学習の機会に高等部実習についての学習を行い、体験や教材の共有を図る。
		進路決定までを見通した高等部と中学部の実習における関連を図る。	2 進路決定に向けて生徒の課題を共通理解、支援の連携を図る。 高等部は進路決定に向けて、ステップアップ表を活用し教員間で課題の共通理解、支援の連携によって課題の改善、克服を目指す。

重点目標 3

地域社会に開かれた学校づくり

進路指導部	3 地域社会に開かれた学校づくり ②情報発信の工夫・充実	(継続)・新規) ・保護者、教職員へ進路選択に向けた情報提供に努める。	1 保護者へ情報提供を図る。 ・ホームページ、進路便り等での情報提供の充実を。 ・高等部は懇談等で「進路指導に関する手引き」を活用し進路決定までの見通しをもてるようにする。 2 教職員への情報提供を図る。 ・校務LANにて地域ごとの施設の情報提供を行い、懇談等で活用しやすいよう整備する。
地域支援部	3 地域社会に開かれた学校づくり ①コロナ禍における保護者や地域社会との連携	(継続)・新規) ・センター的機能充実事業を広く地域に発信し、地域と連携をはかりながら本校の専門性を生かした具体的な支援を行う。	1 学校説明会を円滑に実施し、地域に対し適切な情報提供や助言を行う。 ・コロナ禍において安全かつ効果的な方法を各学部が工夫する。 ・就学、転学等に関する保護者からの相談に丁寧に対応しニーズに応える。 2 地域の幼児教育施設や小・中学校等の教職員等を対象に研修会を実施する。 ・事例研究会を開催し本校の専門性を生かした助言や情報提供を行う。 ・手作り教材展を開催しHPで発信する。
地域支援部	3 地域社会に開かれた学校づくり ②情報発信の工夫・充実	(継続)・新規) ・地域住民や保護者に向けて、学校の情報や地域とのつながりについて発信していく。	1. ホームページを毎週更新して学校生活の様子を伝えるとともに、保護者にはホームページについて懇談等で周知していく。 2. 地域の施設での資料掲載、地域の回覧板等を通して、地域住民の皆様が学校について知る機会を設ける。 3. コロナ禍で地域の方との交流が厳しい中ではあるが、感染症対策をしながら学校から地域へ出て活動する機会を検討していく。
渉外部	3 地域社会に開かれた学校づくり ①コロナ禍における保護者や地域社会との連携	(継続)・新規) ・PTA活動やおおぞら会活動についての理解を求め、学校や保護者同士のつながりが深まるような取り組みを行う。	1 コロナ禍におけるPTA活動やおおぞら会活動の企画、運営をする。 ・より多くの方に参加していただける活動を企画し、活発化させる。 （標準服と体操着等のリサイクル活動、ベルマーク活動、イエローシートキャンペーンの紹介） ・進路指導部や情報部と協力して、保護者が求めている情報を広報誌やホームページ等で提供したり、リモート等で情報交換する機会を設けたりする。（卒業生の声、地域の施設情報）

重点目標 4 教職員の人材育成と専門性の向上

高等部	4 教職員の 人材育成と専門性 の向上 ①学び続ける教 職員による授業 力の向上	(継続 ・ 新規)	・年間指導計画に基づいて単元指導計画を作成する。 ・指導計画に基づいた授業実践。 ・授業実践後、授業について評価を行い、改善内容を検討する。 ・改善内容に基づいて次年度の年間指導計画等を作成する。
		・3つの柱にそって年間指導計画や単元指導計画の目標を設定し、授業実践、評価することにより授業の改善、授業力の向上につなげる。	
教務部	4 教職員の 人材育成と専門性 の向上 ②お互いの良さを認め、伝え合う教職員集団	(継続 ・ 新規)	1 teams等を活用し、係の業務遂行状況を係間で共有する。 2 係の業務を複数で処理し、正確な業務遂行に努めるとともに経験の蓄積を図っていく。
		・教務部としてのまとまりを意識し、係間の意思疎通を高めていく。 ・各係業務の共有化、共通理解を深め、円滑な係運営に努める。	
研修部	4 教職員の 人材育成と専門性 の向上 ①学び続ける教 職員による授業 力の向上	(継続 ・ 新規)	1 昨年までの成果をもとに、3つの学校課題研究が、スムーズに他学部でも広がりを見せられるように、研修部全体、研究係、研究推進委員会、研究推進グループの情報の共有と連携を図る。 2 研究紀要「しば」を滞りなく出筆することができる。 7月：出筆担当者選出、10月：進捗状況確認、1月：出筆原稿提出、2月下旬：紀要完成 3月：発送 3 コロナ禍における初任研、基本研修、校内研修等の研修を柔軟に対応し、スムーズな実施と研修報告等を年度末の研修報告等で掲載・発表する。
		・学校課題研究をさらに推進し、実践研究を積み重ねる中で、本校教職員の授業における企画力、授業力の向上を図る。 ・コロナ禍における各研修への柔軟な対応を行い、スムーズな実施と成果等の情報共有を行うことで、教職員の資質向上の一助とする。	
情報部	4 教職員の 人材育成と専門性 の向上 ①学び続ける教 職員による授業 力の向上	(継続 ・ 新規)	・教職員向けの情報モラル、機器やソフトウェアの活用方法等の研修を実施する。（教員向け研修の実施）「学習指導部と連携」【情報教育係】
		・情報教育に関する研修を行い教職員による授業力の向上を図る。	